

(様式1)

## 令和6年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第三寺島小学校
校長名	関口 亮治

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・2年生から5年生まで、漢字など言葉の特徴や使い方に関する問題において、平均正答率が全国平均と同等かそれ以上となっている。</li><li>・全学年、物語の内容を読み取る問題において、平均正答率が全国平均を上回っており、前年度より伸びている。</li><li>・全学年、計算問題の平均正答率が全国平均を上回っている。</li><li>・2年生から5年生まで、算数において、学力上位層の割合が50%を超えている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・文章を書く問題において、ほとんどの学年で平均正答率が全国平均と同等かそれ以上となっているものの、全国平均との差が縮まってきた。</li><li>・説明文の内容を読み取る問題において、全国平均を下回っている学年が半分以上ある。</li><li>・高学年は、社会と理科の全観点において、平均正答率が全国と比較して低い傾向にある。</li><li>・学年が上がるにつれて、学力下位層の割合が高くなる傾向にある。</li></ul>

#### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・家族や友達、先生など周りの人から支えられていると感じている児童が多い。</li><li>・「充実感と向上心」の項目で肯定的に回答している児童が多い。</li><li>・「いじめのサイン」の項目で肯定的な回答が多いことから、学校生活の中で嫌な思いを感じている児童は少ないと考えられる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「他者からの評価」が低いと感じている児童が多い傾向にある。</li><li>・全体として「発信力」が低い傾向にある。</li><li>・「対話・話し合い」を肯定的にとらえている児童が多いが、学力が下位になるにつれて話し合う授業を楽しんでいる児童が少ない傾向にある。</li><li>・自主的に授業の予習、復習をしている児童が少ない傾向にある。</li></ul>

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・ほとんどの児童は毎日宿題に取り組んでおり、毎回宿題を提出している。</li><li>・ペアやグループでの話し合いを活発に行える児童が多い。</li><li>・他者受容感の高い児童の割合が多い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・宿題や課題への取組が既習内容の定着につながっていない児童が一定数いる。</li><li>・学級全体で考えを共有する場面において、すすんで発言する児童が偏る傾向にある。</li><li>・内発的動機づけが低い児童の割合が多い傾向にある。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 主体的に学習に取り組む態度を高めるための取組

- 「分かる」「できる」「定着する」「楽しい」授業の展開
  - ・本校の研究主題を「主体的に学びに取り組む児童の育成～学ぶことに興味や関心をもつ単元づくりを通して～」と設定し、実践的な研究を推進し、授業改善を図る。
  - ・各教科、領域において、カリキュラムマネジメントの視点に立った単元づくり、対話的になる授業づくり、学ぶための振り返りの充実に取り組むことを通して、児童が主体的になる問題解決型の授業の充実を図る。
- 特別支援教育の視点をもった指導の充実
  - ・個別支援の工夫（学習環境の整備、ルビ付き教材や学習シートの工夫、問題数の選択、ICTの活用）の工夫を行うことにより、児童の学習意欲を高め、学習にすすんで取り組めるようにする。

### (2) 学習内容の定着が低位の児童の学習意欲を高めるための取組

- 放課後の学習機会の充実
  - ・チャレンジ教室（1、2年）の実施により、学習機会を確保し、学習習慣の定着を図る。
  - ・放課後補習教室（3、4年）の実施により、個に応じた指導・支援を充実させる。  
→個に応じた教材の準備、担任と教室担当者の連携による習得状況の確認。
- 算数少人数指導の効果的な実施
  - ・テストの見直しまで習熟度別クラスで実施し、未習熟をなくす。
- 基礎・基本の学習の充実
  - ・さんてらタイムの時間に、漢字、計算、言葉の習得に全校で取り組む。
  - ・ふりかえりシート、問題データベース、ミライシート等を活用して既習内容の定着を図る。

### (3) 特定の教科学習を充実させるための取組

- 国語科教育の充実
  - ・音読、よむYOMUワークシートの活用、詩の暗唱等、文章を読むことに慣れさせる。
  - ・文章を読む学習において、要約や文章の構造（問いと答えの関係等）をつかむ活動を工夫する。
  - ・3年生以上は国語辞典を身近に置き、日常的に活用できるようにする。
- 理科教育の充実
  - ・実験、観察を充実させ、「本物」から学ぶことができるようにする。日常の事象につなげる。
  - ・観察→結果→考察→まとめ、ふり返りという流れで授業を展開し、自分の言葉で学んだことをまとめられるようにする。
  - ・導入や終末に振りかえりシートを活用し、語句の習得、理解の定着を図る。

## 3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・「学習意欲」の値を全国平均以上にする。
- ・全教科を全国平均正答率以上にする。
- ・学年毎の同一集団の経年変化の学力向上を目指す。